

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



まだ夏の名残りはあるものの、心なしか高く感じる空に、秋の雲が広がっています。皆さん、如何お過ごしでしょうか？

夏の終わりは、他の月より去っていくことへの感慨が深いように思われます。いつの間にか日の入りが早くなっているのに気付き、朝夕にそよぐ風の涼しさを感じる時、ほっとしながらも、どこか寂しさを覚えます。

今夏は、コロナの感染が止まず、例年のような楽しみが少なかったせいかもしれません。



来夏には、もっともっと楽しみが増えるようにと願います。季節の変わり目、くれぐれもご自愛ください！

家を建てる段取り (1 2)

引き続き、家を建てる際に大切な段取りについて書かせていただきます。どんな段階を経て家が完成するのかを楽しみながらご理解いただければ幸いです。



【土地を探そう】

新しい暮らしがどんなものになるかは、家を建てる土地によって変わるケースがあります。

土地の価格も、同じ広さでも場所や条件によって違ってきます。

家族に小さな子供がいるかどうか、お年寄りがいるかどうか、通勤の負担をどのくらい減らしたいか、また我慢できる条件は何か？など、その家に暮らすことになる家族全員で、条件をよく話し合ひましょう。

最寄り駅からの距離や道路づけ（南に面しているかどうか）、小学校や中学校の学区、日当たりや騒音などの条件は、全て土地で決まります。

不動産会社などに相談する場合には、希望をなるべく細かく、優先事項を明確に伝えましょう。

エリアの中で候補の土地が絞れてきたら、朝と夜、晴れの日と雨の日、平日と休日などと、いろいろな状況で数回足を運び、周辺の様子などを確認してみます。毎日の生活を思い描き、買い物や病院などへのアクセスも確かめられればなお良いでしょう。



土地によっては、敷地規制や地盤などの制約で、建てられる家のプランが限られてしまう場合もあります。微妙な方位の関係で北側斜線規制（建物の高さが規制される）がきつくなったり、地盤が弱い場合には建築の前に補強工事が必要になったりすることもあり、そうなれば当然そのための費用も別途かかります。

土地を決める前に、住宅会社の担当者などに、土地の条件を相談してみてもいいでしょう。

次回に続く

「心のゴムを緩めましょう」

仕事、勉強、家事や子育てなどで毎日忙しい上に、未だ収束を見ないコロナ感染・・・皆さん、ストレスを抱えていませんか？

知らず知らずのうちに、

- 一生懸命頑張らなければいけない
- こんなことを言ったり、したらどう思われるだろう
- 断ったら嫌われるかもしれない
- 子供じゃないのだから、こうあらねばならない

・・・等等。

こんなことで心のゴムを締め付けてはいませんか？

誰だって出来ないこともあって当然ですし、嫌われることだってあります。常に 100 点満点で生きようとすれば、ストレスが強いのしかかります。

ですから、人生は 70 点満点と考え、もっと“自分らしさ”を大切にしてみましょう。

そうすると心の負担が減って、毎日がもっと自由で楽になり、心が元気になるはずです。



含蓄のある言葉



毎日、仕事に行く道すがら、必ず目を向ける掲示板があります。

それは、あるお寺の門前に設けられた掲示板なのですが、法話会などの催事の案内と共に、模造紙ほどの大きさの紙に、筆で書かれた言葉が貼られています。

それが、当然の言葉のようでありながら、常に考えさせられる深い言葉ばかりなのです。

先月は、「人生やり直しはできないが、見直しはできる」でした。

言われてみれば・・・その通りですね。

そして今月は、次のように書かれていました。

「頭をさげる 頭がさがる
この違いは大きい」

確かに、頭をさげるというのは自らの意識に基づいて行うことであるし、頭がさがるというのは意識をしなくても人間としての本能、根源的な感性に基づく、自然の中からうまれる無意識の行動といえるのかもしれませんが。

他人の行いを見て感動した時、あるいは誰かから何かをしてもらった時に、その人に対して感謝の念を持つ時、人は自然に自らの頭をさげるものです。



今日の社会においては、他人との関わりが薄くなってしまった分、残念ながらこうして自ら頭をさげたい場面は、少なくなっているのかもしれませんが、その無意識の行動を支えている「感謝」という気持ちは、いつの時代にあっても、決して忘れてはいけないことだと思います。

やって当たり前、してもらって当然という感覚の中からは、感謝の気持ちはうまれてこないし、社会貢献の考え方も、うまれる余地はありません。

今の時代、親から子へ、子から孫へ・・・と、例えば、「感謝」であるとかのいつの時代にあっても変わらない、人としての大切な生き方を含蓄のある言葉と共に、語り伝えていくということは必要ではないでしょうか？

「実るほど、こうべをたれる稲穂かな」



いつものお寺の掲示板。

次は、どんなことを教えてくれるのだろうかといつも気になりながら、通勤の道を急ぐ朝のひとときです。



人間は、一生勉強。
まだまだ学びが必要です。
頑張りましょう！

「編集後記」

開催前には様々な意見が飛び交った「東京オリンピック・パラリンピック」でしたが、いざ始まってみると連日の熱戦にいつの間にか惹き込まれていました。

特に、パラリンピックでは、障害があることを忘れさせてしまうほどの活躍振りに大きな感銘を受けました。

出来ないことを数えるのではなく、出来ることに努力を惜しまず練習を重ねてきた結果が、大きな輝かしい実を結んだのです。お疲れ様でした。

そして感動をありがとうございました。

オリンピック・パラリンピックを通じ、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせるやさしい社会の実現に向け1歩前進したことを実感します。

9月、夏の思い出は残しても、お疲れを残すことの無いよう、くれぐれもご自愛ください。

今月号もお読みいただき有難うございました。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子